

中国東北におけるロシア材の輸入状況 —中ロ国境の綏芬河・東寧を中心に—

永井リサ（九州大学）

はじめに

1998年、中国では「天然林保護プログラム」が実施されるようになった。これにより中国東北地域でも天然林は原則として伐採禁止になり、林業局が許可した計画伐採だけが行われる様になったが、当然激しい木材不足を引き起こしロシア材の輸入増加を引き起こした。ロシア丸太の中国への輸入量は、1996年が52万立方mであったのが、2004年には2004万立方mと、8年間で約38倍もの急激な増加を示し、北方林の急速な破壊などが懸念されている。今回は中国におけるロシア材輸入の現況を明らかにするため、中国最大のロシア材輸入地点である綏芬河及び東寧での現地調査を元に、中国へのロシア材輸入状況について報告を行う。

調査方法

2006.3.3-2006.3.17にかけて、中国東北の主要な木材市場（大連、瀋陽、長春、ハルビン）及び、主要な中ロ木材輸入地点である綏芬河と東寧を訪れ、市場関係者や木材関連企業、工場で近年の中国へのロシア材輸入状況についてインタビューを行った。

結果と考察

綏芬河におけるロシア材輸入状況は加速する一方であり、綏芬河だけで1000万立方mに達する勢いであるが、加熱する中ロ貿易に対して最近ロシア政府の規制の動きを見せている。鉄道の起点として、ロシア材の一大集散地になっている綏芬河とは対照的に、南部の東寧は、ウスリースクから直線で約60キロ、ウラジオストックから約100キロという地の利を生かして、近年黒竜江におけるロシア材加工特区（「中国黒竜江・ロシア材加工貿易地区」）という商業実験区に指定されており、東寧郊外にはロシア材を加工し海外向けの製品にする比較的規模の大きな製材工場が建ち並んでいる。（この特区には53企業が参加）ここではロシア材を一次加工した後、大連へトラックで送り、大連で二次加工した製品を日本を中心とした先進諸国へと輸出する（ロシアからの原木輸出→中国東北での製材→大連から海外へ輸出）という、ロシアー中国間におけるロシア材生産流通加工の分業体制が確立されつつあった。

引用文献

雑誌

綏芬河市企業協会『辺境貿易』452-455, 綏芬河市企業協会, 2006年1-2月

著書

柿澤宏昭・山根正伸『ロシア森林大国の内実』, 日本林業調査会, 2003年

国家林業局編『2004年中国林業年鑑』, 中国林業出版社, 2004年

(連絡先: 永井リサ nagair@elf.coara.or.jp)